

私たち一行はヨルダン渓谷を北上し、海拔マイナス 260m、世界最古の町の一つと言われるエリコへ向かいました。沿道には、ナツメヤシ、オリーブ、マンゴー、バナナの果樹園が途切れることなく見えました。エリコはパレスチナ暫定自治区にあるため、バスはゲートで検問を受けました。日本の JICA の支援がかなり入った場所とのことで、日本人ツアー客には、特にはありませんでしたが、銃を持ち、顔を黒い布で覆った男がバスに入って来る姿を見るのは気分が悪いものでした。また、エリコに入ると信号などはほとんどなく、建物や環境もイスラエルの清潔さとは段違いです。

先ず世界最古の町であることを示すテル・アッスルターンに行きました。エリコの郊外に、一万年前の住居跡、塔、4000 年前の城壁の跡など、無造作に針金のフェンスで囲ってありました。遺跡群が同じ場所に層をなして積み重なっています。考古学など無縁の私には地層も何が何やら分かりません。気が遠くなるほどの昔を、各地層から見つかる石器、陶器の破片などで推定しているそうです。



キャサリン・ケニヨン発掘 7800BC の円形塔

ヨシュアがエリコの城壁を囲み、角笛が鳴り渡ると、民は鬨の声をあげた。民が角笛の音を聞いて、一斉に鬨の声をあげると、城壁が崩れ落ち、民はそれぞれ、その場から町に突入し、この町を占領した。(ヨシ 6:20) その後、エリコを滅ぼし尽くすように命じたけれども、不可能だったようで、ヨシュア以前の古い遺跡がこのように発掘されています。エリコはオアシスの町とされていますので、水源があり、豊かな果樹を楽しめるところで

すが、「エリシャの泉」と名付けられた泉があります。この町(エリコ)の人々はエリシャのところに来て、「御覧のように、この町は住むには良いのですが、水が悪く、土地は不毛です」と訴えた。彼は、「新しい器を持って来て、それに塩を入れなさい」と命じた。人々が持って来ると、彼は水の源に出かけて行って塩を投げ込み、「主はこう言われる。『わたしはこの水を清めた。もはやここから死も不毛も起こらない』』と言った。エリシャの告げた言葉のとおり、水は清くなって今日に至っている。(列下 2:19) エリコの発展はエリシャのおかげと言いたいのでしょうか。ザアカイを記念するイチジク桑の古木もチラッと眺めることができました。



遺跡の前のエリシャの泉

私たち一行は再びバスの人となって北上し、ベテ・シェアンを目指しました。雨が降って来ました。ベテ・シェアンの立地は、広大なエズレル平原の東にあり、肥沃な土地で、交通の要衝ですから、此処には 18 層にも及ぶ様々な時代の遺跡が残されているとのことで、驚くばかりです。エジプト、ペリシテ、イスラエル、ローマ、ビザンチンの歴史に組み込まれ、更にイスラムに属して、寒村となりました。



ベテ・シェアン遺跡にかかる虹

古代文明は 8 世紀の大地震によって破壊された姿を今に残しています。その中で、ヘレニズムからローマ時代のビザンチン時代にかけての古代都市の遺跡ベト・シェアン国立公園を見学しました。バスから降りると雨が止み、虹が出てきました。ローマ時代の素晴らしい円形劇場、復元されている石畳の列柱通り、様々な神殿跡などを駆け足で見て回りました。アクロポリスに登る道もありました。

この古代都市は、イスラエル最初の王サウルがペリシテ人との戦闘によって、ギルボア山で死に、彼らはサウルの武具をアシュレト神殿に納め、その遺体をベト・シャンの城壁にさらした。(サム下 31:10) ことを思い出させます。ギルボア山(536m)は見えませんでした、この西 10 キロにあるそうです。